

鉄道地質が「Linked Open Data チャレンジ Japan 2018 最優秀賞」を受賞



このたび、内藤一樹氏（地質情報基盤センター整備推進室長）制作のスマホ用アプリ「鉄道地質」が、Linked Open Data チャレンジ Japan 2018 最優秀賞を受賞しました。

地質調査総合センターでは、インターネット空間でさまざまなデータが繋がり合う活用性の高いデータ形式である LOD（リンクト・オープン・データ）として地質情報の整備と公開を進めてきたところです。これらの地質情報を活用し、他分野のデータと組み合わせる新しいデータの価値を生み出す試みとして作成されたものが「鉄道地質」です。一般の人が手軽に地質情報に触れることができ、鉄道旅行に新たな楽しみが加わるスマホ用アプリとなっています。オープンデータの巧みな組み合わせと、高品質なビジュアライゼーションが評価されました。

選考コメントには、「地質情報が鉄道路線に沿って綺麗に表示され、旅先や普段の鉄道移動に新しい発見を与えてくれるアプリです。本作品はデザイン面だけでなくデータの可視化も良く考えられており、アプリとしての完成度の高さとオープンデータの組み合わせの巧みさを高く評価いたします。LOD チャレンジでは隠れた人気ジャンルの鉄道、どこにいても足元に必ず存在する地質情報はアイデア次第で多くの連携を考えられそうです。今後の更なる展開を期待しています。」とされ、2018年12月8日にヤフー株式会社オープンコラボレーションスペース「LODGE」で開催された授賞式では、内藤整備推進室長が表彰されました。

（産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター）



写真1 授賞式での講演の様子



写真2 右：内藤氏，左：審査委員長の国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系教授 武田英明氏

（写真提供：LOD チャレンジ 2018 実行委員会）

「鉄道地質」の詳細については本号の51～54頁に掲載されています。